

2026 FLAMENCO 奉納

# INAMURA 6

～稲むらの火～



濱口梧陵の偉業を讃え  
今ここにフラメンコ奉納



REIKO



El Pulga



大西やすたか



原啓司

11月21日(土)  
よる17:40より

廣八幡宮  
舞殿にて

観覧・拝観無料



2025  
INAMURA5  
ダイジェスト版



HP

お問い合わせ INAMURA 実行委員会 TEL090-3978-3400

# INAMURA ~稲むらの火~

山の恵み、大地の恵み、川の恵み、そして海の恵みに満たされている廣村。人々はこの自然豊かな土地で憤ましく、それぞれの仕事に誇りをもち暮らしています。この廣村の大商人の濱口梧陵は村人皆に愛される人物であった。いつもと変わらないはずの1日。昨日の小規模な地震に続き、平和な日常を崩す大地震が今、この豊かな廣村を襲う。

11月5日(1854年12月24日)、夕方七つ時頃(16時半頃)大震動があり暫くして静まった。村内を巡視する際、西南方向から巨砲を連発するような響きが数回あり、海岸に行った処、未だ異変が認められなかったが、心を休める暇もなく、怒涛早くも民屋を襲うと叫びがあり、疾走するなか激浪が広川を遡り人家が崩れ流れていくのが見えた。自らも瞬時に潮流に半身を没し辛うじて丘陵に漂着すると、背後には押流される者、流材に身を寄せる者と悲惨な光景が広がっていた。一旦八幡宮に行くと悲鳴を揚げて親、子、兄弟を捜す声が溢れる。日が暮れ壮者十余名とともに松明を焚いて救助に向かうも流材が道を塞ぎ歩行を妨げていたが、十余の稲むらに点火して安全な地を表示した処、これを頼りに万死に一生を得た者が少なくなかった。暫くして八幡宮近くの一本松に引き上げた頃に最大の激浪が襲来し、火のついた稲むらが漂い流されていく様子を見て天災の恐るべきを感じさせられた。

-濱口梧陵手記より抜粋-

今から約170年前、江戸時代年号が新たに「安政」と改まった年の出来事。稲むらの火は、安政の大地震の際、醤油醸造業(現在のヤマサ醤油)の当主、濱口梧陵(はまぐちごりょう)が稲むらの山に火をつけて廣村(現・広川町)の村人たちに津波を知らせ、廣八幡宮に誘導したという話。多くの人々は命が助かった事に安堵するも、それでも被害は大きく、衣食住の全てを失い離村を申し出る者が次々と出てくる。村の存続を願った梧陵は、防災と村民救済のため、堤防造築という大事業に乗り出した。国を頼らず、村の豪商を束ね出資し、老若男女を問わず、広村堤防造築に参加した者には生活を保証すべく日当を与えた。さらに、私財を費やし新たに建てた住居、農具や漁具を貸し与え村人の暮らしを支えたのだ。こうして出来た600mを超える堤防は94年後の南海大地震の際の大津波からこの広川町を守り抜いた。100年後の廣村の為に村人達と手と取り組み取った未来。まさに偉人に相応しい功績である。

この話を詳しく知った時、僕の中でINAMURAの幕は上がりました。皆さまも奉納するお気持ちでご観覧下さいませ。

フラメンコ舞踊家 辻本元之

## -プログラム-

- 1幕「日常」
- 2幕「引き潮」
- 3幕「TSUNAMI」
- 4幕「鎮魂の舞」
- 5幕「復興」
- 6幕「喜寿天女」
- 7幕「歡喜する村人」

## 【キャスト】

### -濱口梧陵-

辻本元之

### -閻天女-

窟女 古池ルミ  
阿 宮芝久美 昨 有本えり子

### -天女-

玉 上野山多恵 主 細馬由美子  
柗 田中駿子 葛葉 馬場孝恵  
來葉 藤木由紀

### -村人-

いね:梅本和美 お花:上田住江 お恵:坪井幸代  
きよ:櫻畑由佳 達三:宮本順子 さと:鮎白安貴子  
八郎太:長峯紀子 彦次郎:小林佐枝 勇助:生駒絹代  
わかは:佐々木みどり

### 【音響】

岩田重好・田中利典

### 【撮影】

田中嘉宏・三木修一

## 駐車場地図



- ① 廣八幡宮 P
- ② いなむらの社 P
- ③ JAありだ広川 P

⚠ 駐車場には限度がありますので乗り合わせて早めにご来場下さいませ。



INAMURA5



ダイジェスト版

廣八幡宮

〒643-0064 和歌山県有田郡広川町上中野 206

※ 簡単な折りたたみ椅子などご持参頂ければありがたいです。

お問い合わせ INAMURA 実行委員会

TEL090-3978-3400